



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和 6年 3月 26日
第 14 号
さいたま市立日進中学校
TEL 048-663-1251
FAX 048-663-0834

『友』

校長 小熊 誠

本日で令和5年度205日が終了です。保護者・地域の皆様のお蔭様をもちまして、何とか無事に修了式を迎えられそうです。ありがとうございました。どうぞ令和6年度も、今まで通りの御理解と御協力そして温かい御支援をよろしくお願いいたします。また、不安定な天候の折から皆様におかれましても、お体には十分御留意ください。

3月9日から2年生が2泊3日で「館岩自然の教室」に行きまして。雪を心配し、インフルエンザと闘いながらの実施となりました。黄色学年一丸となった臨機応変な対応。最後の「スパイス」が加わり、味わいのあるいい「味」



に仕上がってきました。日進の「顔」への準備は万全です。3月15日には、第77回卒業証書授与式を挙行了しました。3年生が日進の「顔」としての重責を果たし、誇りを胸に立派に卒業していきました。吹奏楽部と共に魂を込めた「校歌」。これからの日進のチャイムとなります。今後彼らは、日進の守護神として、大好きな日進を見守ってくれるはずで



す。彼らが切り拓く素晴らしい未来と活躍を楽しみにしています。さて、今号では、「友」について私の思いを述べさせていただきます。今年の卒業生との面接のなかで、「一番嬉しかったこと」という質問で、「部活」と共に同率一位だったのが、「友だち・学級」でした。彼らは、部活や学級で、切磋琢磨し、一生付合える大切な友だちと出会い、友情を育んできました。私にも、一生付合える大切な「友」がいます。そのうちの一人が、四国で中学の校長をしています。彼は、私の最大のライバルであり、一番の理解者であり、夢を語り合った、尊敬できる、心の友です。彼の人生は本当にドラマチックで、幼少期は九州、中学だけ四国、高校・大学は東京です。四国には、もう肉親も親類縁者も一人もいません。しかし彼は、自分の夢を叶える先生になるには、今の自分の元となった中学、そして四国しかないという強い意志をもっていました。そこで彼は、大学卒業後、単身で、住む場所もはっきり決まっていないうち、中学の先生と仲間を頼って四国に渡り、念願の中学の先生となりました。瀬戸内海にはたくさんの島があります。学校のない島もあります。彼は、そんな島の学生と共に生活する寮の寮長も務めました。すなわち24時間先生です。でもそれが彼の夢でもありました。校長となり、小・中学校で子どもが12人しかいない、離島の校長も務めました。まさに「24の瞳」です。現在は自分の母校の校長を務めています。そんな彼から、「定年前に先生を辞めたいと思っている」という連絡が入りました。私は、採るものも取らず弾丸で四国に向かい、彼の学校に行きました。校長室で、彼の家で、とことん話ししました。24時間先生を実践してきた彼には、今の教育の方向性が納得いかないようです。そこで、「まだ気力・体力があるうちに、現場を離れ、違った目線と立場で、子どもたちのために自分のできることをやってみたいという強い思いに居ても立ってもいられなくなった」と語ってくれました。彼は、私に正直に自分の思いをぶつけてきました。私も自分の思いを彼に真っ向からぶつけました。もしかした、傍から見たら喧嘩に近い言い合いに見えたかもしれませんが、でもそれができるのが本当の「友」だと思っています。彼は、彼の信じる道を選び、この3月で退職します。私は、私の立場でやれることをやります。2人、道は分かれましたが、お互いの根底に流れる思いは、私たちの宝である、子どもたちを、守り、磨き、輝かせ、ともに未来を創っていくことに変わりはありません。お互い、アプローチは違っても、目指すところは同じです。私たちの勝負は、まだまだ続きます。離れていても、長い時間会ってなくても、お互いに認め合い、正直になれる深い信頼関係がある。それが「友」です。生徒たちが日進で培った友情を「友」へと進化させていけることを願っています。どうぞ皆様も温かく見守っていただければ幸いです。

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校